

研究ノート

新島襄の考えた良心教育とコールバーグの道徳性発達段階

Conscience Education advocated by Joe Niijima and The Moral Development Stages by Lawrence Kohlberg

荒 木 紀 幸*
Noriyuki Araki

この小論では、新島襄が1888年11月に全国の新聞紙上で公表した「同志社大学の設立旨意」等を手がかりに、同志社大学が掲げた良心教育について、L.コールバーグの提唱した道徳性発達段階説（1987）から検討したものである。これに先だって、履歴を調べたところ、二人はマサチューセッツ州アンドーヴァーにある名門高校、フィリップス・アカデミーを卒業していることが分かった。また二人はそれぞれ国の法律に従わないという決断が人生の大きな転機となったという共通点が見られた。新島の場合は自由と文明、キリスト教を求める良心の叫びに従ってアメリカに密航したことが、ハーディー夫妻に出会い、高校、大学、神学校に進学し、キリスト教主義の大学、同志社大学を設立するという偉業に結びついた。コールバーグの場合はホロコーストに義憤し非合法的な難民救済に参加した結果、強制収容所に収監されたことが、後に正義とは何かを求めて、道徳性の発達理論、3水準6段階の道徳性の発達を導き出した。この二人の判断を道徳性発達段階に照らしてみると、第Ⅲ水準の脱慣習的、原理的原則的水準に該当すると考えられる。なお新島が良心教育で重視したことは、キリスト教主義、良心、自由主義、平民主義、在野精神、自治自立、一国の良心、地の塩・世の光、一人は大切、等について、道徳性の発達段階との対応を検討した。この結果何れも、第Ⅲ水準、脱慣習的水準にあって、第5段階の、「人権と社会福祉の道徳性」を目指していると推察できた。

キーワード：良心教育、キリスト教主義、自由主義、平民主義、自治自立、一人は大切、新島八重子、フィリップスアカデミー

1. 同志社大学での学び

筆者は同志社大学、同大学院（1962～1967）で心理学を学んだ。この学びの成果を代表する研究に、博士論文の「小学生の言語連想（主査－梅本、甲南女子大学、1992）」と神戸親和女子大学退職記念出版の「不安やストレスを下げ、自尊感情を高める心理学－学校生活を充実させるために」の2つがある（あいり出版、2011）^{注1}。

これらの研究は同志社での学びで培われたものである。学生時代を心理学実験工場と揶揄されていた秋田清教授ゼミを基点に学部、大学院を過ごし、言語連想、偶発学習の研究の傍ら、京都大学梅本堯夫教授主宰の言語学習研究会に参加したり、不安の研究を松山義則教授と濱治世教授から教わったこと等が影響したものである。しかし、当時の私は大学のチャペルアワーに出席することもなく、同志社の創立者である新島襄や良心教育についても特に関心をもつことはなかった。只、「在野」ということと「心理学史」の講義での思い出が心に残っている。京都大学佐藤幸治教授から、同志社英学校が開設なった

1875年の入学生の一人元良勇次郎は、日本で最初の心理学者で東京帝国大学の初代教授であったことや後輩の松本亦太郎が京都帝国大学の初代心理学教授となった^{注2}ことなどを聞かされたことである。このとき歴史ある同志社大学の心理学を専攻したことを誇りに思った。

2. モラルジレンマ授業へ傾倒

同志社を離れて^{注3}10年、子どもの遊びの研究会「子どものためのプログラム研究会」を主宰する^{注4}一方で、心理学を道徳授業に適用できないモヤモヤ感をもって宮崎大学教育学部でゼミ生の教育実習の指導に当たっていた。コールバーグ理論（山岸、1976）と出会い、その理論の発達観やモラルジレンマ物語りに衝撃を受け、ピアジェとコールバーグの理論や授業について基礎から学ぶ日々が続いた。

1980年に現職教員のための新構想大学、兵庫教育大学大学院の開設が決まり、転機が訪れた。1年遅れの1981年に兵庫教育大学大学院教育方法講座の助教授として赴

* 兵庫教育大学名誉教授

任した。翌年モラルジレンマ授業研究を呼びかけ、幸いにも授業者（4年生時の息子、寿友の担任、徳永悦郎道徳専科）と大学院生（現職教員）、大学教員（前田和利道徳担当）、の合わせて6人でもって道徳教育研究会（1986年から道徳性発達研究会、略称道発研）が9月に発足。PDCA サイクルに立ったアクションリサーチを、1983年5月から附属小学校5年2組徳永学級の子どもたちを対象に本格的に始めた。3主題6時間の授業分析を終えた10月には、道徳的自律をめざす道徳教育において、心情主義や価値の押しつけをめぐる問題を避ける方法として、「教育の目的は子どもたちを発達させることにある」というデュイの教育哲学の下に、コールバーグの提唱する認知的発達段階論を拠り所に、わが国の学習指導要領を眼下に入れて、授業のねらいを、「道徳的葛藤（モラルジレンマ）を集団討議によって解決に導く過程を通して、児童・生徒一人ひとりの道徳的判断力を育成し、道徳性をより高い発達段階に高める」と定義し、話し合い（モラルディスカッション）の道徳授業、1主題2時間（兵教大方式）モラルジレンマ授業モデルを提案した（吉田重郎・兵庫教育大学道徳教育研究会、1983）。

実践研究とは別に荒木ゼミでは認知発達理論についての検討、道徳性発達検査の標準化、モラルジレンマ教材の開発、授業分析の方法や授業の評価法等について、並行して精力的に検討した^{註5}。1984年度、附属小道徳部に畑耕二先生が加わり、学校教育センター内の授業公開室を使って授業と授業後の研究交流会を開き、更に夏に宿泊研究会を計画してモラルジレンマ授業の普及に努めた。1985年から鳥取市立（当時八頭郡）河原第一小学校と定期的に研究交流し、次第に近隣の小学校を巻き込んで研究会は広がった。こういった活動の成果は日本初のコールバーグ理論に依拠した道徳教育書、「道徳教育はこうすればおもしろい—コールバーグ理論とその実践、北大路書房」の出版（1988）に繋がった^{註6}。

この1985年は私たちにとって2つの大きな出来事があった。1つは日本道徳心理学会^{註7}の誕生である。これにより、道徳心理学の研究交流の場が確保され、研究の方向性が明確となった。今1つはコールバーグ博士とヒギンズ博士に直接お会いでき^{註8}、お二人を身近な存在と感じたことである。講演会を終えたコールバーグは1987年に道徳教育国際会議をモラロジー研究所で開くことを提案され、会場は興奮に包まれた。その後お二人が京都観光された折にも、夕食をご一緒した。その席ではハーバード大学に誘われ、研究に手応えを感じ、大いに自信をもった。2年後の再会を楽しみにお別れした。

私たちの研究は心理学への偏りが強く、教育学や哲学的な視点が弱いと考えていた。そんな折、同志社大学教授で先輩に当たる教育学者佐野安仁先生がコールバーグ理論に造詣が深いことを知った。そこで連絡を取ったところ合同研究会をやるうと言うことになって、1987年から私たちの研究会と同志社大学佐野安仁教授と吉田謙二

哲学教授を代表とする道徳教育研究グループ^{註9}との合同研究会が立ち上がった（この年、6回の集まりがあった）。この頃コールバーグ博士の来日に合わせて、博士著の翻訳書が次々に発売された^{註10}。同志社大学佐野・吉田教授と私たちもまた、コールバーグ博士を京都に招き、共同で道徳性教育書を出版する企画があった。こうした楽しみを持って1987年を迎えたが、1月中旬半に岩佐先生からコールバーグ博士が急逝されたとの悲報が入った。こうして、博士と共同で道徳性教育書を刊行する計画はもろくも消えたが、この企画は形を変え後日、佐野・荒木編「道徳教育の視点 1990 晃洋書房」と佐野・吉田編「コールバーグ理論の基底 1993 世界思想社」の2冊の刊行となった（当学会の発足で両教授は顧問に就任）。

第1回道徳教育国際会議（東と西の道徳教育—伝統と革新—）は1987年8月24～27日にモラロジー研究所を会場に開催された。海外から12カ国40名、国内から220名の道徳教育の専門家が集まった。私たちも仲間9人と参加し兵教大方式のモラルジレンマ授業について発表した。海外の先生方が私たちの実践に関心を示されたので、私たちは益々自信をもった。1990年には第15回北米道徳教育学会（ノートルダム大学、パワー博士）に招待され「社会的認識に及ぼす役割取得効果」の他、ポスター発表をした（原、1991、研究年報1990年版、149頁）。

私たちは研究を初めてから活動の内容をその都度、「われわれの研究のあゆみ」に記録し、公表している（荒木、1988）が、年間の研究成果について詳述した「道徳性の発達に関する研究年報1989年度版」第1号を研究室発行した（2003年第15号で休刊）。2001年7月、「日本道徳性発達実践学会」が発足、翌年6月第1回神戸親和女子大会（山根耕平委員長）を開催。筆者は2004年兵庫教育大学を退職し、神戸親和女子大学に移った。2022年現在、コロナ禍の中で第21回武庫川女子大会をweb開催（寺井朋子委員長）。学会誌、「道徳性発達研究」第1号は2005年に発行、2022年現在第15巻が発行された。

道発研はこれまで、モラルジレンマ授業の普及のため、モラルジレンマ教材（MJ）を予想される子どもの反応の価値分析表、授業展開、判断理由づけカード等、一体のものとして提供してきた。私たちが開発したMJは2020年時点で小学校は141本、中学校（高校を含む）104本、合わせて245本に達した^{註11}。利用者のために、MJ毎に4つの視点に基づいた内容項目（徳目、道徳的価値）を対象学年毎に併記し、合わせて原作者、掲載書籍等を明記した一覧表を作成している（荒木、2010、2020b）。

私たちの30年に渡る一連の実践研究は大きな成果をもたらした。例えば、文科省の示す従来型の道徳授業では道徳的な発達の変化は見られなかったが、モラルジレンマ授業ではブラッド（Blatt）効果、つまり1/3段階の道徳性の発達の上昇が確認され、更に2/5段階の役割取得能力の発達の上昇も見られた^{註12}。また従来の授業と比べて児童・生徒は主体的で意欲的に授業に参加していた。

このモラルジレンマ授業の特徴は中堅の先生を中心に受け入れられ、全国で広く実践・活用されていることが調査から分かった（藤井，加藤，2010；荒木，2015；紅林他，2017）^{注13}。Web上で紹介された「ぜったいひみつ」の10の授業例を取り上げて、授業のねらい、授業過程（導入、展開、終末）、道徳判断に分け、比較分析した結果（荒木，2019）から、子どもたちの意欲的な取り組み、主体的な道徳的判断が明らかにされたが、道徳性の発達という授業のねらい（「である」ではなく、当為「べき」で考える授業法）、道徳性発達段階（価値分析）表に基づく評価等は学校現場に全く浸透していなかった（学習指導要領では発達段階について具体的な説明がなく、数値によるのでなく記述式で評価することを求めている）が、「オープンエンド」の考え方、民主主義に立った話し合いは広く受け止められていることが確認できた。

コールバーグ理論やモラルジレンマ授業への関心の高さ（発表された文献数）を1968年から2020年までを調べた最近の研究（荒木，2023）によると、調査した総数は688文献であり、年間文献数の過多で見ると、コールバーグ博士の来日（1985年）直後に文献数の急激な伸び（第1の山）が見られ、その後文献数は徐々に増え、特に『特別な教科道徳』が誕生し、副読本の「心情理解道徳」から「考え、議論する道徳」へ質的変換が求められた2014年頃から文献の数は急激に増え、『議論する道徳』の実現に向け、モラルジレンマ授業の影響や期待の高さが垣間見える。こうして、文献数は2016、2017年をピークとする（第2の山）対数的増加曲線（図1）を示した。

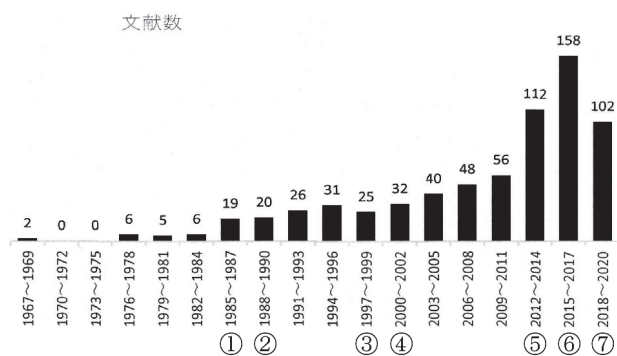


図1 モラルジレンマ授業に関連する3年区切り毎（1968～2020）の発表数の推移（荒木，2022）を688本に修正

①コールバーグの来日、②4つの視点、③心の教育、④心のノート、⑤私たちの道徳、⑥特別な教科道徳、⑦考え・議論する道徳

3. ローレンス・コールバーグと新島襄

コールバーグと新島襄の履歴を調べると、どちらもアメリカ東部の名門高校、フィリップス・アカデミーで学んでいたという事実を知って驚いた。コールバーグは高校時代の2年間、1943～1945年、新島襄は1865～1867年の22歳、23歳の2年間である。68年という時代の隔たり

はあるが、コールバーグ、道徳性の発達、良心教育、新島とこれまで無関係とみられた関係が一つに繋がって捉えることができると感じた。これを切っ掛けにこれまで省みなかった新島や同志社の良心教育について改めて色々と調べた。先ず二人の足跡を辿ることにした。

（1）コールバーグ（Lawrence Kohlberg）と道徳教育

コールバーグは1927年10月25日、ニューヨーク市ブロンクスヴィルの裕福な家庭で生まれる。アメリカ東部の名門高校、フィリップス・アカデミーで学び、自分がユダヤ系アメリカ人であるために人種差別を経験する。高校を卒業した1945年秋、アメリカの商船隊の一員としてヨーロッパに渡り、ホロコーストを生き延びたユダヤ人の苦境に出会い、人類がかって経験したことのない不正に義憤する。早々に商船隊の任期を終え、ユダヤ人救済のための非合法活動を行い、キプロスの強制収容所に収監される。その後キプロスからパレスチナへ逃亡し、しばらくキブツに留る。イスラエルの独立戦争が終わった1948年にシカゴ大学に入学する。入試の成績が抜群だったので、1年で学部を終え大学院に進学する。正しいと思う目的のために暴力的手段を用いることが許されるのはどういふ場合か。あの場合は普遍的な道徳などというものがあり得たのだろうか。それとも道徳的選択は文化や国によって異なり、相対的なものだったのだろうか。このような道徳の問題、正義の問題にコールバーグは1955年頃から取り組むようになった。その後1958年、学位論文「10歳から16歳の思考と選択の様式の発達」を著し、哲学博士を取得する。1959年イエール大学助教授（心理学）、1962年シカゴ大学助教授、1965年同大学准教授を経て、1968年ハーバード大学教授（教育学・社会心理学）となる。1974年同大学道徳教育センターを設立し所長に就任する。1972年クロスカルチャーな資料収集で中央アメリカに旅行した際、滅菌していない水を飲んで大腸に原虫（protozoa）が入り込み、それが元で脳が侵され、鬱病に悩み、理論の完成を見ることなく、失意の中で、提唱した第一回道徳教育国際会議を控えた1987年1月17日に59歳で亡くなった。

毎年11月に開かれる北米道徳教育学会では、彼の業績を讃えて、メモリアルレクチャーが催されている。我が国では、コールバーグ博士の思い出や博士の人となり、学問に対する姿勢などを、生前親交の深かった日本の心理学者6人がそれぞれ熱く語っている（続道徳教育はこうすればおもしろい、北大路書房，1997，204-224頁）。

コールバーグはピアジェとデュエイをベースに哲学、社会学を広範に統一した学問体系の構築に取り組んだ世界的な心理学者である。「子どもは小さな哲学者」、道徳教育の目的は道徳性を発達させることにあるとして三水準6段階の道徳性発達理論に基づいて、認知的不均衡をもたらし仮説的なモラルジレンマ技法を開発した。その解決のためにソクラテス方式の討論（日本ではモラルジ

レンマ) 授業を実践した。+1 方略(前段階の考えの不十分さを指摘)を用いて1975年にはブラット効果(1/3段階上昇)を発見した。コールバーグの示した3水準6段階の道徳性発達段階は世界の道徳教育の金字塔である。

なお博士は、1969年のイスラエル訪問を機に自身の理論を再構築し、「ジャスト・コミュニティ」の考えを導入し、潜在的カリキュラムに配慮、直接民主主義に基づく教育実践を提唱した。1971年、女子刑務所で始まった実践はケンブリッジ(オルタナティブスクール)、ニューヨーク、シカゴ、サウスベンド高校のコミュニティスクールでパワーやヒギンズたちに引き継がれた(荒木、2013)。

(2) 新島襄と同志社大学設立

1843年2月12日に下級武士の家に生まれた^{註14}。女4人の下に誕生、祖父弁治は思わず「しめたッ!」と叫んだ。七五三太と命名。神田一ツ橋、上州安中藩江戸屋敷で、身分の高い人に気を遣った息苦しい生活を強いられた。9歳、屋根から跳んで樽を飛び越えようと足を踏み外し切り石で左のこめかみを16針縫う大怪我をし、自宅で2ヶ月間も療養した。その後男の子らしい荒っぽい遊びは一切やめ、本を読み、手習いし、花鳥風月の書き方を近所で習った。13歳、藩主から蘭学を学ぶ3人の1人に選ばれるが、翌年藩主死去。17歳、築地の軍艦教授所に通うことを許され、数学、航海術を学ぶ。オランダ軍艦の威容に衝撃を受ける。19歳、洋型帆船快風丸への乗船を許可され、航海術の実習で江戸から倉敷までを往復航海し自由を満喫。20歳、襄はともに蘭学を学んだ菅沼総蔵から、アメリカでは大統領を選挙で決めることを聞いて衝撃を受け、アメリカを自分の目で確かめたくなった。国禁の書、聖書の漢訳本を渡され、聖書の説く天地の創造主という考え方にまたも衝撃を受け、海外に関心が向かい、蘭学の他、英語を学ぶ。ロビンソン・クルーソー漂流記の和訳、アメリカに関する書物等を読む。21歳、快風丸が北航することを知り、藩主の許可を得て、送別の宴を自宅で済ませ、函館に向かう。ギリシャ正教神父ニコライの家に住み密航の機会を待つ。22歳、6月14日夜半、富士宇之吉の計らいで密かに米船ベルリン号で上海に渡る。漢訳新約聖書を買ひ、自由と人権を求めワイルド・ロバー号に乗り換え、翌年7月20日ボストン着。テイラー船長に船主のハーディー夫妻を紹介される。夫妻と共に、アンドーバーに向いフィリップスアカデミーで編入学を許可される^{註15}。23歳、アンドーバーの教会で洗礼を受け、キリスト教徒となる。24歳、フィリップスアカデミーを卒業、アーモスト大学専科生となり寮生活に入る。25歳、アーモスト大学の3年生に編入。27歳、リュウマチを患う。アーモスト大学を卒業し、アンドーバー神学校に入学。28歳、外交官森有礼とボストンで会見。国禁を犯してアメリカに渡った新島の帰国実現のために留学免許状と旅券が森から届けられた。29歳、岩倉具視の遣米使節

団の一員文部理事官田中不二麿と会見し、教育事情視察に関して通訳の仕事を委嘱される。木戸孝允と懇談、アメリカ東部の諸学校視察の旅に出る。5月には、田中と共に欧州航路の船に乗り込み、ロンドン、パリ、スイス、ドイツ、ロシア、オランダ、デンマーク等の教育事情を視察して、ベルリンに居を定め田中の復命報告書の原稿作成に努める。30歳、リュウマチ治療でウィスバーデンで5ヶ月過ごす。9月パリからニューヨークに戻り、アンドーバー神学校に復帰。31歳、伝道教会より日本通信員に任命される。アンドーバー神学校の卒業式、日本語で記念スピーチを行う。海外伝道協会の総会では、キリスト教主義大学を日本に設立することをアピールし、5千ドルのカンパを得る。11月26日、10年ぶりに帰国。32歳、木戸孝允を訪ね、大学設立についての援助を依頼する。京都府知事榎村正直と顧問山本覚馬等に会い、京都を候補地として考え始める。覚馬は自分の所有していた御所の北側の土地を学校建設用地として安く手放した。覚馬による「同志社」の命名を受けて、『私塾開業願い』を出し、11月29日同志社英学校開設に当たり祈祷会を行ない、仮校舎で開校式を開催(生徒8名)。33歳、かねてから婚約していた覚馬の妹八重子^{註16}と1月3日に結婚式をあげる。9月12日校舎2棟完成。この前後に熊本洋学校に学んだ生徒(熊本バンド)が同志社に入校。34歳、同志社女学校開設。札幌農学校を辞めたクラーク(アーモスト大学の化学の教授)が新島を訪ねる。35歳、6月同志社英学校の第1回卒業式挙行。37歳、自責事件。39歳、板垣退助刺客に襲われ、大津港まで迎えに出て京都まで同行し、翌日大阪に見舞う。その後伝道のため、姫路、城ノ崎、宮津、福知山を回り帰洛。八重子夫人と共に、夫人の古里若松を訪れる。40歳、同志社社訓四か条の制定。41歳、2度目の外遊。香港からコロンボ経由でローマ着。4月29日。アルプスに登る途中、呼吸困難になり、山頂の宿で遺言書を書く。医者診察を受け、休養。その後ロンドン経由でニューヨーク、ボストン着。ハーディー夫妻に迎えられる。42歳、アーモスト大学を訪れ、恩師の学長のところに滞在する。内村鑑三の訪問を受ける。12月17日帰京。43歳、仙台に同志社分校の宮城英学校(翌年、東華学校と改称)を仮開校。44歳、同志社病院開院式、京都看護婦学校開校式を行なう。45歳、「同志社大学設立の旨意」が全国の日刊紙に掲載。46歳11ヶ月、八重子夫人、徳富猪一郎、小島弘道を枕元に呼び、口頭で遺言を伝え、徳富が筆記。急性腹膜炎で23日午後2時20分絶命。1月27日同志社チャペル前広場に天幕を張り、告別式を挙行了。同志社は多くの苦難を乗り越え、大正9年(1920)の大学令によって、正式に「同志社大学」となった。

(3) コールバーグと新島襄、もう1つの共通点

それは、いずれも国の法律に従わないという決断が人生の大きな転機となったことである。コールバーグの場

合はホロコーストに義憤し、自己の信念に従って非合法的な難民救済に参加するという法律違反を犯したことが、後に正義とは何かを求めて、道徳性の発達理論、3水準6段階の道徳性の発達を導き出したことである。一方、新島は息苦しい封建社会で育ち、自由と文明、キリスト教を求める良心の叫びに従って、国禁を犯して危険なアメリカ渡航を執行したことが、後に、ハーディー夫妻に出会い、フィリップスアカデミーとアーモスト大学、更にアンドーバー神学校でピューリタリズムとデモクラシーを肌で感じ、苦勞の末日本にキリスト教主義の大学、同志社大学を設立するという偉業に導いたことである。

なお2人の判断は、道徳性発達理論に照らしてみると、第Ⅲ水準 脱慣習的、自律的、原理的原則的水準（慣習にとらわれた判断を越えて自分なりの判断の原則が確立されて自律的に判断する）に当たると考えられる。

4. 同志社大学における良心教育

（1）キリスト教主義と良心

新島は同志社の教育目的を、「同志社大学設立の旨意」の中で次のように述べている（1888、明治21年）。同志社設立のその目的はただ単に普通の英学を教えるだけでなく、徳性を磨き、品性を高尚にし、精神を正しく強めるように努め、ただ技術や才能のある人物を育成するだけでなく、一国の精神となり、元気となり、柱石となる所の人々、いわゆる良心を手腕に運用する人物を（良心を全身に充満したる丈夫^{ますらお}）を生み出すことに努めてきた。しかしこのような教育は知育のみで決して達成できるものでない。神を信じ、真理を愛し、他者に対する思いやりの情に厚いキリスト教の道徳によって、初めて可能になる（知徳並行主義）と考え、キリスト教主義を徳育の基本とした。「キリスト教主義は実に我が青年の精神と品行とを陶冶する活力をもつ」と考えたからである。このように同志社教育の原点は「良心」にある。これは「人間の目」ではなく、「神の目（至高の善）」を意識して初めて芽生えるもの（道徳性の発達）である。

（2）自治自立

一国を維持するは、決して二、三の英雄の力ではない。実に一国を形成する、教育があり、知識があり、品行の高い人たちの力によらなければならない。これらの人たちは「一国の良心」とか「一国の柱石」と言うべき人たちである。この人たちは教師に教えられて、それを鵜呑みにする人間ではない。自分で考え、批判し、何が正しいかを常に探究する人間である。明治10年代新島に学んだ生徒たち、開発主義の教育を受けた「自治自立の人たち」は、同志社英学校の教育を「啓発自習主義で教師が教えるというよりもむしろ生徒が自ら学ぶ」と紹介している（『創設期の同志社』4頁）。

新島が嫌うタイプの学生は芯のない『軟骨漢』である。

好ましいのは「^{てきとうふ き}倜儻不羈」の学生である。新島は「常軌では律しがたいほど独立心と才能溢れる青年を、今後ともそうした学生を型にはめたり、圧迫したりしないで、本性に従って導き、将来の『天下の人物』に仕立てて欲しい」と遺言に残している。『熊本バンド』は揃って「倜儻不羈」であったが、新島は決して抑圧をしなかった。それは、新島自身が「倜儻不羈」の実践者と見なせる、国禁を犯して密出国した当事者だからかも知れない。

上からの近代化を急ぐ明治政府は、国民を国家に従属させるために、top-down方式で、国家に忠実な国民の育成を目ざしていたのに対して、キリスト教とデモクラシーを国造りの柱にする bottom-up方式をとることは、国民が知性と良識をもって国造りに積極的に参加し、国家が傾きそうになった時には主体的に建て直しに貢献し、国民が主権をもった民主主義国家になることを、新島は理想視していた（「同志社大学設立の旨意」『全集』1、140頁）。つまり、「自治自立の国民」の育成こそが一国を維持すると考える新島は、私立の大学の設立意義について次のように述べる。「政府の手で設立された大学が実に有益なのは疑いない。けれども国民の手で設立された[私立]大学が、まことに大きな感化を国民にあたえることも事実である。もとより資金の多さや施設が完備している点からみれば、私立は国立とは比較しようがない。けれども学生が自分独自の気質を発揮し、自治、自立の国民を養成する点は、これこそ私立大学がもっている特性であり長所であると信じて疑わない。（同志社大学設立の旨意、より）」

（3）自由主義、平民主義

新島は、自由への憧れ、キリスト教への関心、西洋文明への強い思いをもって密出国し、アメリカにやってきた。フィリップスアカデミーへの入学、アンドーバー教会での洗礼、アーモスト大学、アンドーバー神学校への進学という生活の中で、自由主義、平民主義、デモクラシーを実感し、それらを身に付けたものと考えられる。

『創設期の同志社』では、「彼は徹底的にイエスの心を心として生きた人でありました。高き志の実現に激しい情熱を燃やし、誠実で忍耐強く、他者を思う心が豊かでありました。彼は学生の価値可能性を信じ、個性を大切に、クラスの中で「いと小さき者」に配慮し、彼らを極みまで愛した教育者であったといえましょう。」卒業生の回想をまとめ、「当時の同志社英学校は19世紀後半のアーモスト・カレッジを彷彿させるものがあり、新島は日本人の権威主義的な思考様式を好まず、言動において民主主義に徹していた」とある。「新島は、キリスト教的な自由主義者であるとともに、デモクラシーの愛好者でもあった。新島の教え子である安部磯雄はつぎのように述べている。先生の生涯は全く平民主義で一貫していると言っても過言ではあるまい。もし先生に最も嫌うものがあつたとすれば、それは貴族主義と官僚主義で

えてくる「ダイモニオン」の声をきいて行動せよ。それが道徳だ。」と青年に説いたそうである。「ダイモニオン」（鬼神）の声とは、「心のうちなる神」、すなわち「良心」の声である。良心はその人のうちにあって、その人を監視し、反省を促し、行動を規制する働きを持つ。かくして、道徳性が発達するとは、人間らしい良さ、善い行い、ダイモニオンの声の学習であり、発達するにつれ、良心の学習が外からの声（他律）から内なる声（自律）に変化することだと言える（荒木、1997）。

（１）道徳性と良心の関係，その発達

ソクラテスは、良心について、『たとえ人に笑われようとも、たとえ損になろうとも、汝自身の心の奥から聞

他律 →→ (良心の学習) →→ 自律
外からの声 内なる声

①精神分析理論（フロイド，1923） 4，5歳頃から親の価値観を同一視して自己にとり入れることにより，良心を獲得．特に幼児期のエディプ・コンプレックスの解消が道徳性の芽生えだという．フロイドはスーパーエゴが理想自我と良心の2つの側面を持つものと考えた．

②社会的学習理論・モデリング論（バンジューラ，1965）直接強化や代理強化により良心を学習，児童期前半から後半頃（8歳～10歳）には良心の学習が行われている．；不安の条件付け，アイゼンク（1964）；スキナー（1938）強化による説明．

③認知的発達論 ピアジェ：道徳判断の研究（1932）、拘束と一方的な尊敬の道徳から協同と相互的尊敬の道徳へ、結果論から動機論、自己中心性の解消、道徳的自律は12歳頃には完成。コールバーグ（1969）；3水準6段階の道徳性の認知的発達段階説を提唱する。道徳性が25歳頃まで発達を続け、本来の意味で自律的となる。

図2は道徳性の発達を説明する代表的な理論をそれぞれ

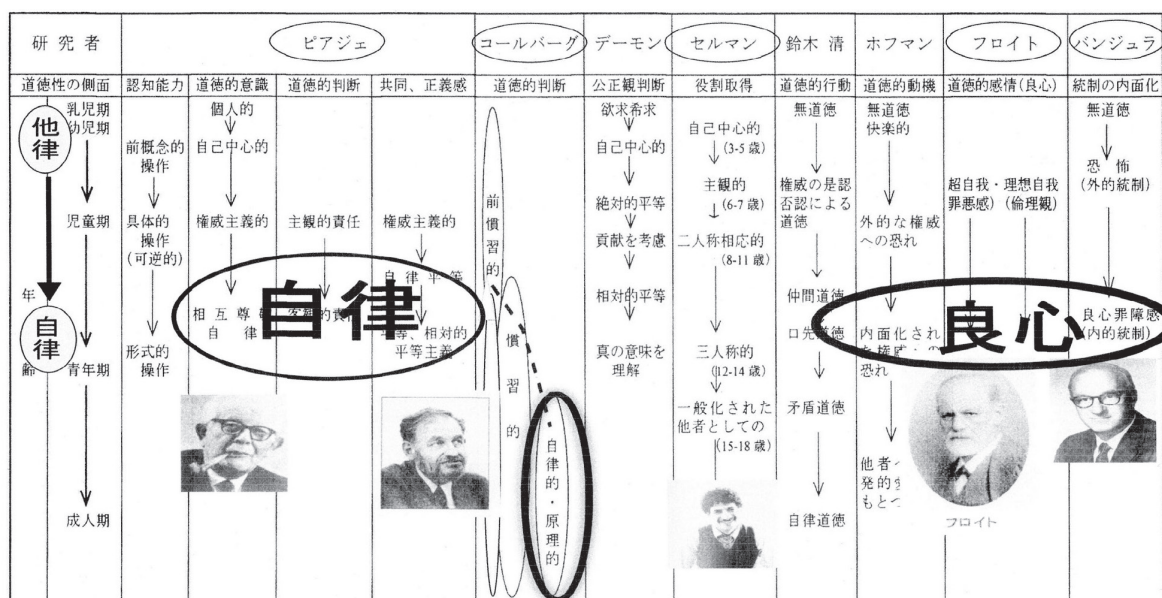


図2 他律から自律へと発達する道徳性を説明する様々な心理学理論（大西，1976；荒木，1987）

れの特徴が目立つように図示したものである。

この中でコールバーグの3水準6段階の発達理論が他の理論とは際だって違っていることがわかる。コールバーグ理論を除いていずれも、自律の良心が生じる時期は青年前期あたりまでである。しかしながら、コールバーグ理論では、そのような意味での時期は慣習的水準あたりに見られるが、コールバーグの考える自律的、原理的水準における良心は、青年期中期から成人期に至ってはじめて現れることがわかる。青年期、成人期の道徳を語る時、コールバーグを除く発達理論を適用しても余り意味がないと言える。しかしながら、中学生、高校生、大学生、成人について道徳性を問題とすると、3水準6段階説を適用して考えることは極めて有益である。

（2）3水準6段階の道徳性発達段階説

コールバーグは、哲学的基礎をデューイに、心理学的な基礎をピアジェにおき、道徳性の発達を、道徳的な認識（正義、公正の見方、考え方）が変化する、つまり「正義に対する普遍的原理」、「役割取得の原理」、「人間尊重への原理」への志向と捉え、「3水準6段階の道徳性発達段階、1958」を示し、（1）社会の道徳を学ぶ段階、前慣習的水準から、（2）社会の道徳を身につけた段階、慣習的水準を経て、（3）社会の道徳を批判し、自律的な道徳の原則に従って行動する脱慣習的水準に至る、というのである。では全ての人が最終の6段階の道徳性の段階に達するかというとそれは極めてまれなようである。コールバーグが6段階の例としてあげているのは、キリスト、釈迦、ソクラテス、キング牧師などごく限られた人々である（図2、表1）。

①「垂直的発達と水平的発達」

段階2から段階3へといった段階移行を垂直的な発達（vertical development）と呼ぶが、その発達は非常に緩慢で年単位で生じる。その発達をもたらす道徳的な不均衡やジレンマの経験（道徳的問題場面）は十分に水平的な発達（ある発達段階特有の思考様式をあらゆる道徳的問題場面に適用することで、安定したその人特有の思考様式となる発達、horizontal development）を遂げた後に生じる。例えば、段階2の入り口に達した子どもは段階1と段階2の思考様式が不安定に現れるが、経験を重ねると段階2の思考様式が一貫して突出するようになる。更に経験が加わると、時々段階3的な思考様式で問題解決することが出来だし、次第に段階3が安定してくる。その後、段階3への垂直的な発達が生じる。このように、十分に安定した思考様式を繰り返し用いて行動するという経験、つまり水平的な発達こそ、次の段階への発達を確実に促すことができる。

②「Ⅲ 脱慣習的水準、自律的、原則的水準」

この水準では、道徳上の原則を支持する集団や個人の権威を離れて、またこれらの集団への個人的な同化とは個別に、妥当性と適応性をもつような道徳上の価値や原

則を定義しようとする努力がはっきりと認められる。新島が良心教育で学生たちに期待していた人間像は、段階5のような道徳性の持ち主というように考えたので、この第Ⅲ脱慣習的水準について、少し丁寧に説明する。

〔段階5〕**人権と社会福祉的道徳性**；正しい行為というのは、一般的な個人の権利と社会全体から批判的に検討され、同意を得てきた規範とに照らして定義されるようになる。この段階では、個人的な価値や意見が相対的なものであるという自覚がはっきりとしており、それに即して、意見の一致をみるための手続き上の規則を重視している。つまり、正しいということは制度に則り、民主的に一致をみたということであるが、それは同時に価値や意見の問題である。この結果は法律尊重を重視しているようであるが、社会的利益を合理的に考え、それに沿って法律を変える可能性を強調するものである。〔段階4の社会システム（法と秩序）ではこの点が凍結されている。また、倫理的原則に合わない規則がある場合、法律や規則に従って生活すると言うよりも、自らの倫理的原理に従う良心によって判断し行為を選択する。〕

〔段階6〕**普遍性、可逆性、指令性をもつ一般的な倫理的原則の道徳性**；正しい行為は社会的原則に合致するだけでなく、論理的普遍性と一貫性に照らして自己選択した倫理的原則合うかどうかで判断され、その中で良心が働く。この場合、倫理原則とは正義と公正の原則であり、人間の相互性（相互信頼）と平等性、人間の尊厳の尊重という普遍的な原理をいう。コールバーグ（1985）は来日の折、慈悲の問題に触れ、第6段階では、慈悲と正義への配慮がすべての人の善の促進と整合する範囲内に留まることを保証し、他方では、正義は慈愛を制限して、自律的な当事者としての個人の権利を尊重・促進しないことのないようにするものである。このようにして、道徳問題が解決されるのである。

（3）良心教育がめざす生き方

①〔地の塩〕、〔世の光〕

新島は徹底的にイエスの心を心として生きた人でした。高き志の実現に激しい情熱を燃やし、忍耐強く、誠実で他者を思う心が豊かでした。彼は生徒の価値可能性を信じ、個性を大切にし、クラスで一番出来の悪い生徒に特別の注意を払い、彼らを極みまで愛する教育者でした。このような人間・キリスト者・教育者新島の背中を見て当時の生徒たちは成長していった（井上、2007）。

「私がもう一度教えることがあれば、クラスの中でもっともできない学生にとくに注意を払うつもりだ。それができれば、私は教師として成功できると確信する」（『現代語で読む新島襄』現代語で読む新島襄編集委員会、179頁、原文は英文）。この新島の思想を受け継ぎ、その教え子であった留岡幸助（牧師）、山室軍平（伝道師）、中村遙（伝道師）らが、未だ福祉制度すら整っていない明治時代の封建社会や富国強兵の価値観で固まっていた

表1 コールバーグによる3水準6段階の道徳性の発達と教育への示唆 (Kohlberg, 1987; 荒木 1997a, 2020シンポ資料修正)

発達水準	段 階	一般的特徴	具体的な行動
Ⅰ 前慣習的水準	段階0 自己欲求希求志向	自己中心的 垂直的な発達のために	○正しいとか、善いというのは、自分の欲求や目的を達する時、つまり自分の思い通りになることである。 ○自他の違いはわかるが、自己と他者それぞれのものの見方を区別できない。 ○思い通りにならんと、嘘をついたり、不正をしたりして、とにかく思いを通そうとする。 ○世の中には自分の好きなように、思い通りにいかないことがあることを教える ○子ども同志の遊びや活動を積極的に用意し、何度も衝突したり、仲良くする経験を積ませる。
	段階1 罰回避、従順志向、他律的な道徳性	大人に無条件の服従 垂直的な発達のために	○先生や親から叱られないように、大人の言う通りにすることが正しいことであり、善いことである。 ○人はそれぞれ感じ方が違うことを理解できるが、自分の気持ちと相手の気持ちを同時に持てない。権威者もしくは自分の考えが正しいという1つの視点しかとれない。 ○悪いことをすると、必ず報いを受けるという強い信念をもっている。 ○より高次の段階2の考え方に触れるなどして、決りの理由についてもっと深く考えさせる。 ○大人は子どもたち一人ひとりに公平に接する。
	段階2 個人主義、道具的な道徳性	利己主義 垂直的な発達のために	○子どもは自立した、意志を持った存在として、大人と対等であると主張する。 ○平等意識が強い。 ○子どもと大人、子ども同志の関係を一種の取り引き (give and take の関係) と考え、「～してくれたら、～してあげる」、「それをしてどんな得があるの」という。 ○自分が他人からどう見られているかによって自分を振り返ったり、自分の動機や行為に対して他者がどのように行動するかを予想することができる。しかし、これらを同時に相互的にはできない。 ○厳格な公正観、「目には目を」に立つ。 ○一人ひとりに対して愛情をもって、公平で平等に接する。 ○相互扶助に立つ。「わたしはあなたのために～をしたのだから、あなたはわたしのために～をすべきです」 ○先生や親の子どもたちへ寄せる期待に気づかせる。
Ⅱ 慣習的水準	段階3 良い子と対人的規範の道徳性 (対人観の期待、関係性、同調性)	利他主義 垂直的な発達のために	○慣習的な道徳の始まりである。 ○良い子のイメージ (期待され、信頼される人間とは、良い動機、良い意図をもち、回りとの良い人間関係を保つことを心掛け、他人に気配りし、他人の期待にあった振る舞いのできる人物) に従って行動する。 ○個人的な人間関係の中での道徳性が問題とされる。「これをすれば、他の人は自分のことをなんと思うだろうか」と他人の目が気になる。 ○当事者の気持ち、他者の気持ち、第3者の気持ち、あるいは一般的他者の気持ちを統合 (相互的な役割取得による) して、みんなにとって公正公平であるように判断できる。 ○内面的な良心が形成される。 ○黄金律を理解し、実行する。つまり、黄金律 (Golden Rule) 「自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのとおりしなさい。」や準黄金律 (Silver Rule) 「自分にとっていやなことを、人にも行わない。」に従って行動する。 ○一人ひとりに対して愛情をもって、公平に平等に接する (人間的な関係の維持)。 ○相互扶助に立つ。「わたしはあなたのためにしているのだから、こんどはあなたがわたしのために～をすべきだ。」 ○望ましい自尊感情が育つように指導する。
	段階4 社会システムの道徳性と良心 (conscience)	社会システム (法と秩序) の維持	○社会的な関係の中での道徳性が問題とされる。「みんなが同じことをしだしたら、世の中はどうなるだろうか」と、組織の中で、自分の行為が他の人にどのような影響を与えるか、の問いかけができる。 ○正しさの基準は社会的な組織の一員としての社会の秩序や法律を守ることである。 ○正しいことは国家や地域社会に積極的に貢献し、決りに従って義務を果たし、自分の役割を果たすことである。 ○権威を敬う。 ○社会の一員として義務を果たすことが自尊感情を満足させる。
Ⅲ 脱慣習的水準 自律的、原則的水準	段階5 人権と社会福祉の道徳性	人間同志の合意の尊重	○正しい行為は個人的権利を考慮しながら、かつ社会全体から承認されるような形で判断される。 ○従って、社会的利益を合理的に判断して、合意の元にそれに沿って法律を変えることが可能である。 ○コールバーグは「規範と基本判断」評定法 (1978) を用いて段階5までを測定している。 ○キリスト教主義、良心教育、自由主義、平民主義に基づいて、「自治自立の国民」、「一国の良心」、「一人は大切」ともいう人間を養成することは段階5に該当すると考える。
	段階6 普遍性、可逆性、指令性をもつ一般的な倫理的原則の道徳性	あらゆる人の人間としての尊厳の尊重	○すべての人の人間としての権利や価値を平等に尊重するという人間の尊厳の尊重が正しさ (Justice) の基準となる (普遍的な倫理的な原則をもつ)。 ○法律が倫理的な原則に合わない時には、自らの原則 (正義の原則) に従って行動する。この段階では「正義」と「慈愛」の原理が相互に指示しあい、調和、統合する。 ○社会的規範に合致するだけでなく、論理的普遍性と一貫性に照して自己選択した原則に合うかを判断していく中で良心が働く。 ○ごく少数の人しかこの段階に達しない。コールバーグは、キリスト、仏陀、ソクラテス、孔子、リンカーン、キング牧師、ガンジー等をあげている。マンデラやマザーテレサ、新島襄*たちもその言動から、段階6と思われる。 * キリスト教主義 自由主義、平民主義に基づいて良心教育を行い、「自治自立の国民」、「一国の良心」ともいうべき人の養成を求め、「人一人は大切なり」と述べる新島襄の教育者としての生き様、「良心」に対する深い洞察は「段階6」に該当すると考える。

社会に抗って、貧しさと飢えに苦しむ人たち、非行少年たち、孤児たち、売春を強いられた少女たち、というような社会から忘れられ、国家ですら見捨てたような「小さい」人一人ひとりの救済に福音の灯を掲げて「地の塩」として近づいていった。これが、歴史家も認めるとおり、結果として近代の日本の社会福祉の基礎をつくっていったのである（木原，2003）。「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である」、目立たないで人のためになる灯台やロウソクの光のように、闇の夜に輝き、暗き道を照らして人びとを助け、導きなさい。これが同志社の伝統なのです。同志社から内閣総理大臣が出るのもいい、しかし世界で困っている人たちに手を差し伸べる「底辺に向かう志」をもった人びとがこの同志社からどんどん生まれることが、今、強く求められているのではないかと思います（井上，2007）。ここに上がった3人、留岡幸助、山室軍平、中村遙の生き方を象徴している聖書のことば、「地の塩」「世の光」はコールバーグの道徳性の発達段階でみると、段階5の人権と社会福祉の道徳性の段階にあると推定できる。

②【一国の良心】

この同志社大学からは政党に加入する者ができるかも知れない。あるいは農業、工業、商業に従事する者ができるかも知れない。あるいは宗教のために働く者ができるかも知れない。あるいは学者となる者もあろう。公務員となる者もあろう。[彼らによって]達成されるものはさまざまなので、あえてあらかじめ定めることはできない。とはいうものの、これらの人たちは皆一国の精神となり、活力となり、柱石となるべき人たちである。すなわちこうした人たちを養成するのが、実に同志社大学を設立する目的なのである。一国を維持するのは、決して二、三の英雄の力ではない。実に一国を形成する、教育があり、知識があり、品性の高い人たちの力によらなければならない。これらの人たちは「一国の良心」とも言うべき人たちである。そして私たちはこの「一国の良心」ともいうべき人たちを養成したいと思う。私たちの目的は実にここにある（同志社大学設立の旨意、現代語で読む新島襄，224頁）。

同志社総長大谷實（2005）は、新島の良心教育について、「仰いで天に恥じず、伏して地に恥じない」公明正大な人間を、教育によって排出することである。その意味で、同志社の学生は、豊かな教養を身につけ、それに基づいて善悪の判断を的確にし、勇気をもって良心的行動に徹する努力をし、倫理・道徳に強い人になって欲しい。そうなることが、喜びにあふれる生活を導き、「一国の良心」となり、本当の意味での幸福につながる。

この「一国の良心」に求められているのは、段階4に見られるように、問題の解決を「法律遵守、社会秩序の維持」に収束するのではなく、国を支えるために自分の考える倫理的原則に従って、民主的な手続きによる変革も辞さない強い心構えの考え、段階5を想定したものであ

る。

③【自治自立】

京都府知事の槇村正直から「あなたは妻君を日本人から迎えるのか、外国人から迎えるのか」と聞かれて、「外国人は生活の程度が違うから、やはり日本夫人をめとりたいと思います。しかし亭主が、東を向けと命令すれば、三年でも東を向いている東洋風の婦人はご免です」と答えている。槇村は「実は女紅場への援助をたびたび求めに来る女性がいるのだが、彼女はどうかろう？」と、女性を紹介している（『新島八重子回想録』）。結婚に際して新島が望んだことは、外面の美しさでなく「心がよくて、教養のある人」である。八重子を妻にしようとした出来事は、暑い夏の日、裏が覚馬を訪ねていくと、中庭で井戸の上に板戸を敷き、その上に座って縫い物をしている八重子の姿を見て結婚を決めたという逸話がある。養母ハーディーに宛てた手紙の中で八重子のことを、「彼女は見た目は、ハンサムではありません。ただやることが非常にハンサムなのです。」と伝えている。

新島の眼には八重子の立ち振る舞に、彼が考え、実行してきた「自治自立」の精神を見たように思われる。

④【諸君よ、人一人は大切なり、一人は大切なり】

「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」という、新町校地の建物の壁面に刻まれていることばは、新島襄が1885（明治18）年に、同志社英学校創立十周年の記念式典の式辞の中で、「思わず」発したことばである。1874（明治7）年、十年ぶりに帰国した新島が1890（明治23）年、47歳の若さで亡くなるまでの15年間の活動の根底には、彼の「人一人ハ大切ナリ」の精神が貫かれていた。彼に学んだ卒業生たちの回想をふりかえり、新島の「人一人ハ大切ナリ」の実践が学生の生き方に大きく影響したかを、同志社大学教授木原活信教授（2003）は、「月刊いのちのことば、12月号」次のように紹介している。個儼不羈（ときとうふき）なる書生（梓にはまらない自由人）というのは才能が豊かで、個性が強く、独立心が旺盛で、普通の尺度では律し難い学生のことですが、教育者新島襄にとっては、やる気を失った学生も、クラスで一番出来の悪い学生も、個性が強く梓からはみ出した学生も一人ひとりを大切に教育を実践した。

新島はすべての人の人間としての権利や価値を平等に尊重することを身をもって示しているが、このような倫理的原則を学生たちが自分なりの道徳性（段階5）に発達させることを強く願っていたと言える。

⑤【在野精神】

「在野」ということばが耳に残ったまま卒業して今日に到っているが、改めて、その意味を辞書で調べた。

「公職に就かず民間人である」とあったが、それは正に新島の生き方を表わしたことばである。文部理事官の田中不二麿は2度に渡って、新島に官職に就くことを誘っているが、何れも断っている。1度目は、アメリカ東部とヨーロッパの教育視察を終えた後の1872年ベルリンの

宿舎で、帰国して一緒に教育行政に当たることを懇願され、2度目が1875年田中が京都を訪れ、3日間新島を口説いているが、「君はキリストの奴隷だ」と言って席を立った（和田，1973）。森有礼（当時駐米公使）からの国費留学生にしたいとの申し出を受けたが、新島はこの申し出を断っている。その理由として日本の政府に束縛されるよりも、「むしろ自由な日本の一市民（a free japanese）のままでいて、主の御業に私のすべてを捧げ」たいからだと述べている（加賀，2015）。

このように、新島は政府に束縛されるよりも自由な一市民でありたい（自由主義）と考え、top-down方式の明治政府のやり方でない、キリスト教とデモクラシーを国造りの柱にするbottom-up方式によって、自治自立の国民が中核となって形成された国家をめざした。このために、新島は私立大学を「人民の手に拠って設立」することを考えた。当時大学とよばれるものは、官立の東京大学一校のみでした。これに抗して、全国の賛同する民間人の手によって、つまり自発的結社という新しい組織原理によって大学を創ろうとした。自発的結社といえは、「同志社」つまり“志を同じくする個人の約束による結社”という名前自体この理念を表わしている。

引用・参考文献

- 荒木寿友 2013 「学校における対話とコミュニティの形成」三省堂
- 荒木紀幸編著 1978 第10章「社会的学習」山内光哉編 学習と教授の心理学 九州大学出版会 307-323.
- 荒木紀幸・八重柏新治・前田和利 1986 「規範—基本判断」判定法を用いた道徳性の測定 兵庫教育大学道徳研究紀要 第6巻 97-137.
- 荒木紀幸 1988 道徳教育はこうすればおもしろい—コールバーグ理論とその実践— 北大路書房
- 荒木紀幸 1992 博士論文「小学生の言語連想」甲南女子大学
- 荒木紀幸（編著）1997a 続道徳教育こうすればおもしろい—コールバーグ理論の発展とモラルジレンマ授業—, 北大路書房 122-149, 219-224.
- 荒木紀幸 1997b 子どもの心に「ダイモニオン」の声を現代教育科学 8月号 No.490 40-43. 明治図書
- 荒木紀幸 1997c コールバーグの横顔 フェアネスマイン 69-70. 正進社（トーヨーフィジカル）
- 荒木紀幸 1998 「教育課程基礎講座4～子供のよさを生かす教育方法の改善～教材の活用と工夫（2）道徳の授業はやっぱりおもしろい」初等教育資料 2月号 No.681, 64-71. 文部科学省
- Araki Noriyuki 2014 Chapter 18 An Application of Kohlberg's Theory of Moral Dilemma Discussion to the Japanese Classroom and its Effect on Moral Development of Japanese Students. *Handbook of Moral and Character Education*. Larry Nucci, Darcia Narvaez, & Tobias Krettenauer (Eds) Pp.308-325. Routledge Taylor & Francis Group. NEW YORK AND LONDON
- 荒木紀幸 2015 「兵庫教育大学方式によるモラルジレンマ授業の研究—コールバーグ理論に基づくモラルジレンマ授業と道徳性の発達に及ぼす効果について」道徳性発達研究 第9巻 第1号 1-30. 日本道徳性発達実践学会
- 荒木紀幸 2018 「道徳教育のための評価法—連想法を使った教育評価の方法、連想マップについて」道徳性発達研究 第11巻 第1号 50-101. 日本道徳性発達実践学会
- 荒木紀幸 2019 『道徳性発達研究会が開発した「モラルジレンマ教材」を用いた授業はどのような成果をもたらしたか？研究3. ネット上で報告されたモラルジレンマ教材「ぜったいひみつ」を用いた授業について』道徳性発達研究 第13巻 第1号 89-99. 日本道徳性発達実践学会
- 荒木紀幸 2020a 「なぜ本のタイトルは、『道徳教育はこうすればおもしろい』なのか」道徳性発達研究 第14巻 第1号 22-32. 日本道徳性発達実践学会
- 荒木紀幸 2020b 道徳性発達研究会が開発したモラルジレンマ教材の研究（3）—小学校と中学校におけるモラルジレンマの型と扱われた道徳的価値（内容項目）— 道徳性発達研究 第14巻 第1号 51-63. 日本道徳性発達実践学会
- 荒木紀幸 2022 わが国におけるモラルジレンマ授業に関わる理論、実践及び教材についての文献総覧（1968～2020）道徳性発達研究 第15巻 第1号 33-72. 日本道徳性発達実践学会
- 荒木紀幸 2023 わが国におけるモラルジレンマ授業に関わる理論、実践及び教材についての文献総覧（1968～2020）；更新、道徳性発達研究 第16巻 第1号 43-45.
- 紅林伸幸・鈴木和正・川村光・越智康詩・中村瑛仁・冨江英俊 2017 小中学校における教科化前の道徳の授業の実施状況調査—2016年度質問調査の結果から— 常葉大学教育学紀要 第38号, 133-175.
- 同志社校友会編 1967 「新島先生記念集」第4版 同志社校友会
- 同志社大学「現代語で読む新島襄」編集委員会 2000 現代語で読む新島襄 丸善
- 同志社大学ホームページ 2021 「同志社大学設立の旨意」、「良心教育と教育理念」、「キリスト教主義教育」、「建学の精神と新島襄」、「新島襄のことば」、「新島八重と同志社」など
- 道徳性発達研究会・荒木紀幸 2010 「道徳性発達研究会が開発したモラルジレンマ資料」道徳性発達研究 第5巻 第1号 1-19. 日本道徳性発達実践学会
- 道徳性の発達に関する研究年報 1991年度版 1992 われわれの研究の歩み（文献・研究活動一覧）1991年度 152. 荒木研究室
- 道徳教育に係わる評価等の在り方に関する専門者会議（第2回）議事録 2015 初等中等教育局教育課程科 文部科学省
- フィリップス・アカデミー 2022 ウィキペディア
- 藤井基貴 2008 「成長する道徳くん2008；道徳教育の授業での課題5（モラルジレンマ）に対して、モラルジレンマ授業について考えたことを自由に論じて下さい。目的、資料、方法論、VTRの感想、コールバーグ理論の検討、日本への適用可能性、自分が授業者なら、など」課題；モラルジレンマ、Weblog
- 藤井基貴・加藤弘通 2010 「道徳教育の授業開発に関する基礎的研究（1）—モラルジレンマに関する実態調査から」静岡大学教育学部研究報告, 第60号, 237-244.
- 藤田英典 2014 「1章2節 教育政策『5本の矢』がもたらすもの」安倍『教育改革』はなぜ問題か, 31-51. 岩波書店
- 保阪正康 2012 「八重と新島襄」毎日新聞社
- 石川俊幸 2004 蝦夷地入植会津藩士の足跡1 江戸幕府講武所から余市まで— 岩見沢市

- 井上勝也 2007 同志社の伝統を受け継いだ社会事業家—留岡弘吉・山室軍平・中村遙の生き方 同志社スピリット・ウィーク「講演」記録
- 神保信一 1981 「道徳性の発達」 藤永保・他（編）新版心理学事典 平凡社 633.
- 加賀裕郎 2015 「私学同志社の教育思想—自由主義・平民主義・キリスト教主義を中心に—」シンポジウム2 私学の思想史 報告論文, 現代教育フォーラム24巻 102-110. 教育思想史学会
- Kohlberg, L. 1958 *The development of modes of thinking and choices in years 10 to 16*. Unpublished doctoral dissertation. University of Chicago.
- Kohlberg, L. & Higgins, A. 1987 *Moral stages and moral education*. 岩佐信道訳 「道徳性の発達と教育」 コールバーグ理論の展開と実践 広池学園出版部 59-143.
- 木原活信 2003 福祉と福音—弱さの福祉哲学第4回, 「諸君ヨ一人ハ大切ナリ, 新島襄の実践 月刊いのちのことば, 12月号 いのちのことば社
- 哲学委員会・倫理・宗教教育分科会報告 2020 道徳科において「考え, 議論する」教育を推進するために 日本学術会議
- 日本道徳性発達実践学会第19回広島大会大会要項・発表要旨集 2019 ご挨拶 1. 安田女子大学
- 西野真由美 1997a 「道徳教育カリキュラム改善に関する調査研究」 国立教育研究所広報第108号, 2.
- 西野真由美 1997b 「道徳教育カリキュラム改善に関する研究」 国立教育研究所教科教育研究部 22-23.
- 大西文行 1976 道徳性の発達と教育 永野重史・依田明（編）心理学入門 新曜社 154-155.
- 大谷 寛 2005 新島襄と良心教育 同志社スピリット・ウィーク京田辺チャペル・アワー「奨励」記録
- ラリーヌッチ 中植正剛訳 2009 「道徳性発達と道徳教育についての伝統的な考えに対する挑戦」 道徳性発達研究, 第4巻 第1号, 11-20. 日本道徳性発達実践学会
- ラリーヌッチ 渡邊ひとみ訳 2009 「青年期における道徳性のU字型発達」 道徳性発達研究, 第4巻 第1号, 48-54. 日本道徳性発達実践学会
- 佐野安仁 1988 元良勇次郎 同志社人物誌 (62) 同志社時報 第85号 86-91.
- 佐野安仁・荒木紀幸編著 1990 道徳教育の視点 晃洋書房
- 佐野安仁 1993 キリスト教主義から学ぶこと—新島襄の教育理念から 同志社時報 第95号 54-60.
- 佐野安仁・吉田謙二編 1993 コールバーグ理論の基底 世界思想社
- 佐藤清文 2010 「モラル・ジレンマとマイケル・サンデン」 Seibun Satow Blog 2010/8.20
- 佐藤清文 2013 「動学倫理学と道徳教育」 佐藤清文ブログ; 2013.4.26
- 竹田敏彦編著 2001 モラルジレンマ授業を展開するための道徳学習資料集 小学校・中学校編 広島県立教育センター
- 静岡小学校 2011 第9章 小学生版ウエルライフ検査を用いた実践研究—静岡小学校における教育実践の取り組み 「不安やストレスを下げ, 自尊感情を高める心理学—学校生活を充実させるために」 あいり出版 176-197.
- 高野剛彦 2018 「総合的な学習の時間」におけるモラルジレンマ授業, 11/5, 6時間目 1年生全クラスで実施, モラルジレンマ「ワクチンは誰のもの」, 神戸市立神港橋高校 HP
- 高野剛彦 2019 ①「2019/01/21, 7時間目の「総合的な

学習の時間」モラルジレンマ「こうのとりのゆりかご」(赤ちゃんポスト)」授業, ②「2019/06/21, 1年生の「国語総合」で, 芥川龍之介の『羅生門』を用いたモラルジレンマ授業の実践, ③「2019/11/20 全学年, 「道徳の日(防災教育)」モラルジレンマ「大震災」を授業実践, 神戸市立神港橋高校 HP

- 高野剛彦 2020 モラルジレンマの枠組みを用いた社会的論争課題の探究～みんな違って, みんないい～, 新聞を活用した教育実践データベース 66-69.
- 山岸明子 1976 道徳判断の発達 教育心理学研究 第24 29-38.
- 吉田重郎・兵庫教育大学道徳研究会(前田和利, 荒木紀幸, 八重柏新治, 徳永悦郎, 畑耕二) 1983 コールバーグ理論に基づく道徳授業実践の研究—授業実践研究会資料 大阪大学
- 和田洋一 1973 「新島襄」 日本基督教団出版局

註

- 注1 博士論文は平成6年度文部省科学研究費の補助金を受け「小学生の言語連想に関する心理学研究」として風間書房(A5版, 全179頁, 付録231頁)から出版された(荒木, 1995). 「不安やストレスを下げ, 自尊感情を高める心理学—学校生活を充実させるために」は神戸親和女子大学2010年度出版助成を受け, あいり出版(B5版全261頁)から出版された(荒木, 2011).
- 注2 同志社英学校では性理学(心理学)の授業が行なわれており, この影響を受けた元良勇次郎は, 留学してジョーンズホプキンス大学のスタンレーホールに師事し, 文科(東京帝国)大学の初代教授となり, 1989年に心理学実験場を開設した. 後輩の松本亦太郎は, 東京帝大哲学科に進み, イエール大学, ライプツィヒ大学に留学し, 1906年に京都帝国大学の初代教授となり心理学講座を開設した. なお元良に続いて入学した中島力造は後に元良と同じ文科大学の教授として倫理学講座を担当し, わが国の倫理学研究に先駆者として貢献した. 二人は熊本バンドの一団と異なり, 常に自修独学していた(佐野, 1988).
- 注3 延岡ウルスラ学園短期大学専任講師(1968年5月)に就任. 就職でお世話になった高校時代の恩師, 辻弘宮崎大学教授(美術)に感謝. 同志社出身と分り熊本バンドのことを話題にされた. 1970年3月に宮崎大学教育学部助手に就任. 1年後講師. この頃から本格的に言語学習のための尺度の開発や小学生の言語連想並びに, サラソンの児童用テスト不安尺度(日本版)を開発し, 小学生のテスト不安についても研究を始めた. この研究は学校内不安研究, 学校生活充実検査へ発展.
- 注4 「子どものためのプログラム研究会」(P.F.C.)は宮崎大学文化系サークルの1つに格上げられ現在も活躍している. 宮崎大学 HP にはその活動の様子が紹介されている.
- 注5 研究を始めた80年代の道徳研究会での活動の様子が詳しく紹介されている(荒木, 1988, 194-199頁). 1980年代の道徳研究会の主な活動を表1に示した.
- 注6 第1回道徳の授業研究会(夏期宿泊研究会)が兵庫教育大学で8.20-21.に開催された. また, 鳥取県河原第一小学校(滝田修主任)との交流研究が始まり, 近隣の学校からも次第に参加者が増え, 60~70人まで達した. 川原第一小学校との交流から, 「道徳教育はこうすればおもしろい—コールバーグ理論とその実践」の出版に繋がった(荒木編著, 1988, 北大路書房).

表1 1980年代の私たちの主な活動（荒木、2023を修正）

1982年	モラルジレンマ授業の研究を呼びかけ
1983年	吉田重郎氏が研究会を代表し、授業実践研究会（水越敏行阪大教授、梶田敏一助教授、西之園晴夫京都教育大学教授主宰）でこれまでの研究成果の発表をした。研究テーマ：コールバーグ理論に基づく道徳授業実践の研究 兵庫教育大学道徳研究会（前田和利、荒木紀幸、八重柏新治、徳永悦郎、畑耕二）兵教大モデル（1主題2時間のモラルジレンマ授業過程）を示し、実践を紹介した。
1984年	モラルディスカッションのための「モラルジレンマ」教材開発 文部省特定研究 荒木紀幸、前田和利（兵庫教育大学）、徳永悦郎、畑耕二（附属小学校）、吉田重郎、八重柏新治（荒木ゼミ院生）、と共同研究で、一連の授業は徳永氏によって行われた。 雑誌「道徳教育、明治図書」の誌上で、私たちのめざす道徳教育を公開。 3月号、「討論のひろば」へ、疑問点を投稿。私たちの道徳教育の考え方について、10月号、「なぜコールバーグ理論なのか」
1985年	「討論のひろば」7月号、「モラル・ディスカッション」を通した子どもの変容「討論のひろば」11月号、「ジレンマ資料づくり」 役割取得能力評定検査マニュアル（筑波大院生渡辺弥生さん資料提供） 荒木・武川彰 兵庫教育大学道徳教育研究会資料 スライド教材「まほう使いのプレゼント」「まほう使いのメガネ」コールバーグ原作；荒木・須之内千秋（訳） 荒木研究室資料 日本道徳性心理学研究会が誕生した（世話人代表、大西文行；世話人、岩佐信道、氏家達夫、高橋丈司・内藤俊史・二宮克美・山岸明子・荒木紀幸）。 コールバーグ博士・ヒギンズ博士、10月13日の広池学園創立50周年記念文化講演会に来日。モラロジー研究所で3回、7、9、12日に研究会を行なった。講演会では「普遍的道徳を求めて」を話された。研究会から、荒木・前田・吉田・野口の4名が参加。
1986年	改訂役割取得能力発達段階評定マニュアル 荒木・鈴木憲・野口裕展 兵庫教育大学道徳教育研究会資料 公平性発達段階評定検査マニュアル 荒木・武川彰 兵庫教育大学道徳教育研究会資料 「規範—基本判断」評定法を用いた道徳性の測定 荒木・八重柏新治・前田和利 兵庫教育大学紀要6巻、97-131。
1987年	中学生を対象としたモラルジレンマ教材と道徳の授業モデル 野口・荒木 兵庫教育大学紀要7巻、55-86。 道徳教育国際会議 モラロジー研究所、に参加、824-27。（荒木、佐野、加賀、山根、林、隈元—兵教大院、鈴木・徳永・松本朗・岡田達也・日野正行）ワークショップ；「道徳性の発達段階評定法（ヒギンズ）、モラルジレンマを用いた討論授業の勧め方（ゴンバク）、価値明確化の新しい試み（ハーミン）に参加。
1988年	スライド教材「キャットビートル」、第1部、第2部完成、 荒木・岡田、 荒木研究室資料 「道徳教育はこうすればおもしろい、荒木編、」を北大路書房から出版、執筆者；荒木、大西文行、徳永、八重柏、武川、鈴木、奥村典保、宮田和恵、西村由利恵、三木美弥子、松本、山本逸郎、畑、吉田、野口、岡田、日野
1989年	モラルジレンマ資料を用いた小・中学校における道徳実践—ジレンマ資料とその構造、及び授業のための指導案— 荒木・徳永・山本逸郎・新垣千鶴子・岡田達也・加藤健志・永田彰寿・日野・畑・松本・吉田、学校教育学研究 第1号105-133、 「道徳性の発達に関する研究年報 1989年度版」第1号を発行。その後、2003年の第15号まで継続発行（日本道徳性発達実践学会の発足をもって終了）。

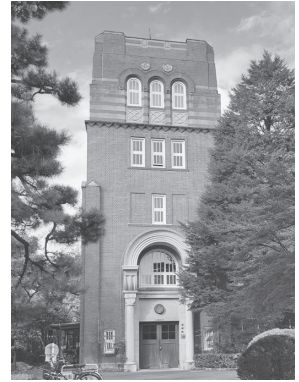
注7 1985年9月に発足した日本道徳心理学研究会の代表世話人は大西文行、世話人は岩佐信道、氏家達夫、高橋丈司、内藤俊史、二宮克美、山岸明子、荒木である。研究会の機関誌として「日本道徳性心理学研究」が公刊され、1992年には研究会編集で、「道徳性心理学」道徳教育のための心理学、が北大路書房から出版された。

注8 岩佐先生から、コールバーグ博士が広池学園創立50周年記念文化講演会に来日され、ヒギンズ博士と3日間の研究会を計画しているとの連絡を受け、私たちは喜んで参加した。博士とは何日も同じ宿舎で一緒にすごったので、夜遅くまで話す機会があり、私たちの考えるモラルジレンマ授業のことや実践の様子などを話することができた。コールバーグ博士の来日について、詳しい紹介（27～28頁）と共に写真を掲載しているので、是非参考にして頂きたい（荒木、2020a）。

注9 当時の院生の現在の所属を表わすと、加賀裕郎同志社女子大学前学長・林泰成上越教育大学学長・山根耕平学校法人親和学園理事長・岡山大学宮崎宏志教授・隈元康弘神戸親和女子大学教授・渡辺英之京都精華大学教授・堤正史大阪成蹊大学教授・新茂之同志社大学教授等である。なお佐野安仁先生は同志社大学を退職後に、近江兄弟社学園高校の学園長として迎えられ、2009年1月7日に逝去された。なお学園の創設者、ヴォーリズは、[One Purpose Doshisha] で始まる



(アーモスト館)注17



(啓明館)注18

カレッジソングの作詞者ですが、建築家でもあり、写真のアーモスト館（現在ゲストハウス）と啓明館（二代目の図書館）を設計された（いずれも登録有形文化財）。

注10 ○永野重史（編）1985「道徳性の発達と教育：コールバーグ理論の展開」新曜社；○永野重史（監訳）1987「道徳性の形成：認知発達のアプローチ」新曜社；○岩佐信道訳（1987）「道徳性の発達と道徳教育—コールバーグ理論の展開と実践」付：アメリカの道徳教育／アン・ヒギンズ、広池学園出版部

注11 タイプⅠ型（1つの価値についての当為を巡る葛藤）とタイプⅡ型（2つ以上の価値の間で生じる当為を巡る葛藤）MJに分類し、その発達の特徴を調べたところ、タイプⅠは68本、タイプⅡは3倍の187本見られた。タイプⅠとタイプⅡの開発数は、小学校低学年でほぼ半ば（44%対56%）、学年が進むとタイプⅠ型が減り、高学年では15%まで減少し、中学生では、タイプⅠが21%、タイプⅡが多数の79%を占めるという結果を得た。MJ物語の対応学年に見る特徴を総括すると、小学校低学年では子どもの好きな動物が登場する話が多く、小3～小6では学校生活や日常生活で起こる葛藤が大半で、中学校以降では社会問題や歴史上の事件、取材や体験に基づく人の生き方等が多い。将来の不確実な社会を自律して生きる基礎を提供しようと様々なジャンルのMJが制作されていた（荒木、2020b）。

注12 8つの修士論文の研究から明らかにされた結果は次のようである。モラルジレンマ授業を受けた後で、事前検査と比べて2段階上昇している場合には2点、1段階上昇している場合に1点、変化がないものを0点、1段階下降している場合を-1点、2段階下降している場合を-2点与え、実験群、統制群（従来型の道徳授業）の道徳性と役割取得能力について発達の伸びの平均とSDを計算した結果は付表2である。付表2から、統制群は全く伸びは見られない。しかし、モラルジレンマ授業群では道徳性の発達の伸びは、0.34、

付表2 授業後の道徳性及び役割取得能力における発達の伸び（発達段階得点）

変数		道徳性発達	役割取得
モラルジレンマ授業群	n	339	209
	m	0.336	0.401
	SD	0.613	0.536
従来型の道徳授業群	n	267	133
	m	0.052	0.060
	SD	0.501	0.454

1/3段階の有意な上昇が、役割取得能力では、0.4、2/5段階の有意な上昇が見られた(荒木, 2015, 11頁)。なお、道徳性は「山田さんのジレンマ」を使った道徳性発達検査(荒木, 八重柏, 前田, 1986)を用い、役割取得検査はセルマンの「木の上の子ネコ」を用いた。なお私たちが開発した道徳性発達検査には、モラルジレンマを用いた小学生版・中学生版フェアネスマインド検査、「木の上の子ネコ」を用いた役割取得検査(4歳~11歳)、中学・高校生版社会的視点取得検査等があり、いずれもトーヨーフィジカルの販売になる。

注13 藤井基貴は教職授業でモラルジレンマ授業を積極的に取り上げている研究者の1人である。藤井の場合は、毎年の教職の授業でモラルジレンマ授業を取り上げるだけでなく、2008年~2013年(収集した資料)では、モラルジレンマ授業などの目的、資料、方法論、VTRの感想、コールバーグ理論の検討、日本への適用可能性、自分が授業者であれば、など、課題に上げてWebレポートさせている(2008)。そのような中で道徳の授業調査について加藤と共同研究した藤井(2010)は、静岡県ではモラルジレンマは4割程度の導入に留まっている事を明らかにした。その理由について、「モラルジレンマ授業は、兵庫教育大学での研究プロジェクトにはじまり導入から約20年が経っている。この間、モラルジレンマ授業は教育学者の間で道徳教育の新たな指導法として大きな注目と期待を集めた。しかしながら、現場(静岡県)ではまだ4割程度の導入に留まっており、依然として大学院での長期研修が教育現場への導入に際して重要な役割を果たしていたため」と分析している。

しかし、文科省もモラルジレンマ授業を積極的に取り上げてこなかったことが、教育現場への浸透が進まなかった原因の1つであると筆者には思われる。例えば、文科省発行の月刊誌、「初等教育資料」から執筆依頼を1度受けたことがある。そこで、堀田泰永作の「門番のマルコ」を用いたモラルジレンマ授業の実際(授業者、堀田)を丁寧に紹介し、この授業がめざす学力についても言及した(荒木, 1998)。しかし、この小論の見出しは「教材の活用と工夫(2) 道徳の授業はやっぱりおもしろい」とあって、これでは読者の興味をかき立てるインパクトのある表題とは言えないだろう。「モラルジレンマ資料を用いた道徳はやっぱりおもしろい」ではどうか?

私たちは1983年からコールバーグ理論に基づく1主題2時間のモラルジレンマ授業を実践し、学習指導要領を眼下に入れて教材開発を行い、道徳性を測定し、授業分析を行って検証し、成果を公表してきた(荒木, 2015)。道徳科が誕生し、「考える・議論する道徳」へ質的変換が図られた(文科省, 2015)ことで、モラルジレンマ授業は新しい教育法の1つとして取り上げられると思っていた。しかし、「道徳教育に係わる評価等の専門家会議(2015)」で柳沼良太は、問題解決的な学習を導入した道徳について話し、「問題解決を二項対立の図式にして、『あれかこれか』を選ばせるだけだと、モラルジレンマのような授業になってしまい、道徳的価値観が混乱して望ましくありません。問題解決型の道徳授業は2つ以上の解決策をいろいろ考え比較検討しながらも、最善の策や次善の策に絞って生き、ねらいとする道徳的価値に迫っていくことになります。」とモラルジレンマ授業を批判した。

この考えに対して、次に登場した国立教育政策研究所の西野真由美は、多角的・多面的に考え議論する学

習を道徳の授業でどう実現するかで、子どもの発達という観点を重視する必要性を強調し、発達段階によって子どもの意欲や対応が合ったり、合わなかったりと大きく変化することを示した。また葛藤や問題状況を道徳的な問題として再構成させることで、いろいろな意見、多様な考えが出てくる問いを作ることが大事だと説き、1つの価値の大切さを確認する授業では、多面的・多角的に考えることはできないとまとめた。そして、道徳はほかの教科以上に答えが1つでない問題を考える時間です。現実の道徳の問題では必ず答えを出していかなければならないのですが、道徳の授業はその訓練の場であり、答えを考え続ける力を育てる場です。話し合いのプロセスに注目して、ある場合は不一致に終わることがあっても、その授業から何かを学んだということを子どもが実感できるように、話し合いを評価する芽を育てることが多様な意見を出し合っている授業を作っていく上でも、生きているものになるのではないかと期待していると述べた。この布石となった西野(1997)の研究の1つ、「道徳教育カリキュラムの改善に関する研究」では、道徳性の発達という視点、モラルジレンマ授業の方法がカリキュラム開発に今後大いに貢献すると述べている。

また佐藤清文(2010, 2013)、藤田英典(2014)は、新しい道徳授業にコールバーグのオープンエンドの討論型授業が盛り込まれていないといち早く批判した。

日本学術会議倫理・宗教教育分科会(2020)は「道徳科において考え議論する教育を推進するために」の審議の報告で、コールバーグが重視する①モラルディスカッションや道徳性の発達を刺激する場面作り、対話による思考力と判断力の育成、②民主的に参加できる機会をより増すように学校環境を再構成する、は道徳の実践力の育成と同時にシティズンシップ、主権者教育に明らかに繋がるとその理論を推奨した。

モラルジレンマ授業が全国的に広がったのは、ゼミ生は勿論であるが、多くの兵庫教育大学院生が大学院修了後、全国に散り、持ち帰ったモラルジレンマ授業の啓蒙と普及に励んでくれたことが極めて大きい力を発揮したと考える。例えば、兵教大院を修了し島根県太田市に現場復帰した原田敏隆は、太田小学校校長に就任しモラルジレンマ授業研究会を計画。それに筆者も参加(1992.10)。更に原田は静岡小学校に就任し、児童それぞれの学校生活を充実させるために、モラルジレンマ授業を含めた教育実践を全校上げて取り組み、年間を通したその成果を詳細に具体的に明らかにしている(2011)。

また、院修了後竹田敏彦指導主事は、1999年に広島県教育研修センター副所長に就任後、「モラルジレンマ授業とその展開」部会を企画し、2001年には「モラルジレンマ授業を展開するための道徳学習資料集(2001)」を受講の小・中の先生と共同開発したり、ミュージカルを組み込んだモラルジレンマ授業するなど、様々な形でモラルジレンマ授業の普及に努めている。

兵教大院修了生の高野剛彦(2017)が所属する神戸市立神港橋高等学校では開校した2016年から「探究活動とモラルジレンマ教育を軸に地域を支える人財を育成」とのスクールポリシーをもちモラルジレンマ教育を重視した教育を行っている。高野(2020)はこれまでの実践からモラルジレンマ授業について次のような感想を述べた。授業の本来のねらいは道徳性の発達を促すことであるが、次のような効果を実感している。

①他者への基本的信頼感の醸成—協同学習の際、批判や否定されるのではという不安を抱えたままでは、安心して自らの考えや意見を表明することはできない。だがこの学習では自分の意見を否定されないというルールが徹底されるため、生徒は安心して発言できる。②探求・問題解決を進める基本的方略の獲得—ディスカッションを繰り返すことで、自己の主張を一方的に展開するのではなく、多角的・多様な視点から分析・検討する習慣が身につく。またオープンエンドであるため、自然に正解ではなく納得解や最適解を求めるようになる。こうした基本的方略を獲得することは、小論文指導など進学指導でも有効に機能している。また、卒業生（320人）はこの3年間の学校生活を振り返ってどのような感想をもっていたかを調査した結果を紹介している「学校案内」によると、モラルジレンマ授業について、役に立たない（2.7%）、役に立った（24.0%）、やや役に立った（49.7%）、覚えていない（22.7%）であり、73.7%の卒業生がこの授業に肯定的であったとある（2022）。

また福山市内の道上小学校の藤田校長から1991年に、モラルジレンマ授業は問題解決型道徳の一つに位置づけるので、学校あげて研究したいからと協力を要請され、数年共同研究した。このときの研究仲間古蔵雅子氏は現在も名誉会員として学会に所属している。このように実に多くの学校現場の先生が仲間に加わり、モラルジレンマ授業を実践しその普及に係わった。

私たちもこれまで積極的にモラルジレンマ授業の実践や報告会、検討会を行ってきた。例えば、1995年には道発研の仲間が分担して、モラルジレンマ授業のビデオを作成し、「ビデオで授業レッスン」を明治図書から出版した（①まほう使いのプレゼント・小学2年（授業者-畑）；②ぜったいひみつ・小学4年（畑）；③サッカー大会・小学6年（徳永）；④この子のために・中学1年（鈴木憲）；解説-荒木）。また徳永先生や畑先生の公開授業では参観者が教室に入りきらず大勢の方で廊下が埋め尽くされた。低学年の「まほう使いのプレゼント、まほう使いのメガネ」でも、写真の「だれのを先にしようかな」でも、子どもたちは役割表現やジレンマを楽しんでいた。今でも娘の麻紀子は附属で受けたモラルジレンマ授業が最も楽しかったという。写真の娘は仕立屋さんになって楽しそうである。



畑先生「だれのを先に」授業風景。1986. 10. 28.

様々な教育雑誌がモラルジレンマの特集を組むなどして、私たちの実践を側面から支えてくれた。モラルジレンマ授業に関連する教育図書がシリーズものとして数多く出版され、また民放テレビ（特捜 道徳教育再生プロジェクト、道徳教育の切り札—モラルジレンマ（門番のマルコ）、授業者—竹田玲子）で取り上げられ（フジテレビ系、2006. 11. 10）、大きな反響が視

聴者から寄せられた（荒木、2022、文献番号219）。「日本道徳性発達実践学会の設立」などもあり、道徳の教科化に伴って教科書に私たちが作ったモラルジレンマ教材が登場することも増えた。特に道徳教科書各社に私たちの研究仲間が編集委員として多数携っており、彼らの今後の仕事を楽しみである。このような働きかけは、モラルジレンマ授業の存在価値や意義を高め、道徳授業法の1つとしてその独自性や有効性と定着を促しているように思う。図1の文献数での2つの山はその一端を表わしている。モラルジレンマ授業の普及のその後について、例えば、紅林伸幸他（2016）の行った全国道徳調査によると、モラルジレンマ教材を使うパーセンテージであるが、小学→55.2%、中学→66.2%、オープンエンドで終る、小→58.9%、中→68.4%という結果であった。普及率は以前よりも向上しており、モラルジレンマ授業は学校現場に浸透していることが明らかにされた。

注14 筆者は1942年2月10日の生まれである。新島襄とはほぼ101年の歳の違いがある。

注15 新島は、清教徒主義（ピューリタニズム）の本場というべきニュー・イングランドに来てその空気に触れるとたちまちのうちに完全に同化されてしまうが、ピューリタンの素質としての道徳的潔癖さは、日本にいる頃に色々な形で新島襄には現れていた。アンドーバーで洗礼を受けた後、信仰の道をまっしぐらに歩み続けるが、フィリップスアカデミーの時代にはじまって、それ以降いささかも動揺することはなかった（和田、1973、110-111頁）。

注16 山本八重子は会津藩の砲術師範の家に生まれた。戊辰戦争では、断髪・男装して、スパンサー銃と刀を持って奮戦したが、敗戦後、覚馬を頼って上洛した。兄覚馬は、戊辰戦争に従事し薩長軍に捕らえられ、「朝敵」として薩摩藩邸に幽閉されたが、洋学所の開設の功などで、明治2年に幽閉が解かれ、京都府顧問、知事の横村正直の相談役となっていた異才の人物で、教育、産業、社会的道徳において多くの功績を残した。私の母の曾祖父石川好忠も会津藩士で、戊辰戦争で薩長軍と戦い、賊軍として江戸講武所で謹慎。明治2年大阪丸でオタルナイに上陸後、明治4年余市町黒川に入植し北海道開拓に従事し、その後父の幸太郎は中富良野に移り、中富良野町西中小学校長で退職（石川、2004）。会津藩という接点に分かり、同志社をまた身近に感じた。なお長女の名前は八重子である。弥栄（イヤサカ）と思い、生まれが3月も末、これから八重桜が美しく咲くからと命名したが、八重夫人と同じと知って感激した。

「八重と新島襄」の著者である保阪正康氏は同志社大学演劇研究会（廃部）の先輩で北海道出身、私が入学した時3年生でした。この年の新入生歓迎演劇祭で岡崎公園の保阪作・演出「生ける屍」の舞台に主役で引っ張り出され、台詞を忘れ失態を演じた。画家をめざし1浪し東京芸術大に落ち、失意の中間同志社に入学。舞台作りに惹かれて入部、1年生前期・後期の成績がほぼ全減。進級したが大学生としてのアイデンティティーを取り戻したく退部、心理学中心の大学生活になった。保阪先輩著の「昭和史講座」（年2回刊行）が第52回菊池寛賞を受け、2005年5月28日、大谷寛同志社総長、八田英二同志社学長が発起人となり、新島会館で祝賀会が催された。演劇研究会の仲間と参加し、再会を楽しんだ。なお劇研の1年生秋の定期公演では、大塚欣司演出、菅野一郎（英文科専攻、写真右）と伊

藤隆（心理学専攻、左隅）主演，照明（深田三徳同志社大法学部名誉教授）で，初の舞台装置（フランス戯曲，うらおもて）を担当した（写真）。



注17 第8回大会（2008.7.5，大会委員長吉田謙二）で基調講演「青年期における道徳性のU字型発達」を頂いたカリフォルニアパークレイ校のラリー・ヌッチ教授の宿舎はアーモスト館でした。親睦会に続き2次会があり，その後先生をお連れしましたが，門扉が閉まっていたとても慌てた思い出があります。先生はコールバーグの孫弟子に当り，道徳の社会認知的領域理論（個人・慣習・道徳性）の観点から青年期のU字型発達を検証している（2009）。ヌッチ，ナルバエズ，クリテノア編集の「道徳教育と品性教育に関するハンドブック第2版」では、『日本の小学校・中学校におけるコールバーグ理論に基づくモラルジレンマ授業と道徳性の発達に及ぼす効果について』を執筆するよう依頼された（2014）。なお，当学会顧問の吉田謙二先生は，同志社大学在職中の2005年12月に池坊短期大学学長に就任

され，同志社大学を2009年3月に退職された翌年，2010年9月3日に逝去された。

注18 当時の啓明館5階フローアは秋田清研究室と心理学実験室があり，ゼミの吉田，上野，灘君と学部時代を，心理学実験，調査とデータ整理，研究に，汗し，談笑したことが懐かしい。院生時代，秋田先生の1日1英語論文読破には大いに刺激を受けた。ところで，同志社大心理学入学のきっかけは田中健次高校恩師の一言である。一浪した翌年に東京芸大入試，実技試験で失敗し，再挑戦の相談で田中先生を訪れた。絵描きにとって人の心を知ることが大切，心理学を学ぶといい。同大心理の入試に間に合うと説得され，受験した。その後上京し，絵の勉強を続けていたところ，3月25日，「母病氣」の電報で呼び戻された。そこで4月1日が同志社大学の入学式と知った。こうして同志社大学に入学し，今日に到った。天国の恩師は微笑んでいるだろうか。

付 記

「良心教育に関するシンポジウム」が2020.1.8，同志社大学（今出川良心館）であり，本稿は，その基調講演「道徳性の発達と良心」について，再吟味し再構成した。シンポジウムを企画し，発表の機会を作って下さった内山伊知郎同志社大学教授にお礼申し上げます。